山本正夫著

指導細說

低學年の唱歌教育

人文書房版

昭和七年 帝國大學 圖書之印

E13720455 梅澤 敬一 2023/10/22 13:44:46

E137.20455

愛唱する良材の一である。遊戯をつけるのもよからう。

三、私の學級（唱歌教材集）大童球溪氏作歌

〔要　旨〕同期入學の友達同志の誼をうたひ、共進共勵の喜びを感じさせて、よき學級たらしめたいと云ふ、團體精神の涵養を促進するのである。

〔説　話〕皆さんが、毎日よく勉强しますから、今日は此組の人皆なが、よいお友達になつて、「一番よい組」になると云ふ、面白い唱歌を教へてあげます。皆さんは一

私の學級

一、いつしよにはいつた友達どうし、
　卒業するまでいつしよの組よ、
　いつでも仲良く勉强しましよ。

二、皆んながすきな良い先生の、
　おしへを毎日たのしくうけて、
　一番良い組になりませう。

所に入學したのでせう。そして又一所に卒業しませうね。長い間の大切なお友達ですよ。仲よくしなければなりませんね。今うたつてあげませう。

〔教師範唱〕第一節だけを範唱して、兒童に諦聽させる。教授法は先例によつて、小黑板を利用して、豫じめ歌詞を堅書きにして置いて、是を提示して口唱させる。是に次いで一樂句宛範唱して唱和させる。

〔曲　節〕ハ長調八分の四拍子である。附點音符もなく、平和な嚴肅な感じのする曲に作られてある。これは儀式唱歌としての特徴である。なだらかに正しくうたはねばならぬ。

〔拍　子〕拍子記號の分子は、拍子の種類を示したものである。而して分母は其基本になつて居る音符が示されて居る。此樂譜は八分の四拍子であるから、一小節は、八分音符四個を基準として四拍子のアクセントを以て進行して居る。分母の音符は、其種類が小さくなる程、小さい感じがして、分母の音符が大きい程、其樂曲が大きな感じを示すこととなつて居る。即ち八分音符は子供の拍子であるし、四分音符は大人の拍子である。而して二分音符は神樣の拍子であると云はれて居る。コーラルを見ると二分の二拍子とか二分の四拍子が多い。四分の二拍子、四分の三拍子、四分の六拍子は大人の音樂で、八分の四拍子、八分の三拍子、八分の六拍子等は皆大抵子供の音樂である。

「私の學級」に八分の四拍子を附したのは右樣の理由によつたのである。

〔歌　詞〕學級精神をうたつたのである。「イツショ」等の促聲が多い。是は促聲になつて居る音は聞えなくなつてもよいから促聲らしく謠へ。それでないと日本語歌詞らしくなくなる。

〔歌謠法〕全曲成らば、分唱體、合唱體の歌謠法をとる。即ち全級を甲乙二組に分ち、第一歌章は第一樂節を甲

E13720455 梅澤 敬一 2023/10/22 13:44:46

つ果つべくとも思はれなかつた。「數十の時計が同時に動くのは時計屋だけである」の警句、大人が考へては何でもないことであるが、子供の考へとして、誠に想像的創作的である。げにや「藍より出でゝ藍より青し」と云ふが、子供らしい創作が、時として大人の企て及ばざる傑作であると思ふとき、洵に「樂しみ其中にあり」と喜ばざるを得ない。同時に又、唱歌の教壇に立てるものは、子供として、「謠ひたくて〳〵たまらぬ」と云ふ樣に、仕向けることが大切である。「今日は一人宛うたはせるぞ」「順番が來て、うたへない奴には罰を與れてやるぞ」と云ふ謠はせ方の態度は、これ實に教育者の態度でない。因果應報式の昔の獄卒の態度ではあるまいか。

〔歌　詞〕　第一節は、朝起の奬勵である。靜かな平和な氣持で弱くうたふ。第二節は、手早く機敏にして、時間を大切に、約束を守ることを敎へる。第三節は、一生懸命になつて、全精神を傾注して勤勉すべきことを敎へる。第四節は、よく學んだ後には、面白く愉快に遊んで、心身の强健を圖ることの大切なことを敎へる。

〔歌謠法〕　導令體の唱法をとる。即ち、或る一兒童を次々に選んで置いて、導令者とする。即ち「時計が鳴つた」だけを、其兒童にうたはせて、後は全部又は一部分の兒童の齊唱とする。

昭和七年一月十五日印刷
昭和七年一月二十日發行

定價　貳圓八拾錢

著作者　山本正夫
東京市神田區小川町一
發行者　鈴木省三
東京市小石川區戸崎町九四
印刷者　土屋弘
中央印刷株式會社

著作權所有

發兌　東京市神田區小川町一
振替東京八一二七七番　人文書房

大賣捌所　東京・東京堂・東海堂・北隆館・文信堂・福屋書店
大阪・柳原書店・名古屋・川瀨書店・位賀・大坪書店
京都・京都書籍株式會社・久留米・金文堂

E13720455 梅澤 敬一 2023/10/22 13:44:46